

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点]（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人 石井記念愛染園
（ユニット名）	グループホーム あいぜん
所在地 （県・市町村名）	大阪府大阪市浪速区日本橋5丁目16-19
記入者名 （管理者）	福岡 悠作
記入日	平成 21年 5月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念は「自分を愛するように、あなたの隣人を愛せよ」である。事業所独自の理念を職員で考えて、「認知症を抱えても、その人らしく、人間らしく、豊かな日々を暮らして頂くように、ご入居者の暮らしを中心に」として、目に付く玄関に掲げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人創設者の精神を受け継ぎ、管理者と職員は日々の業務の中で理念を共有し、確認しあいながら、実践に向けて取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族に於いては、家族会を通して、理念に沿った生活援助の必要性を表現させて頂いた。地域においては、運営推進会議を活用して、具体的に地域の方に理解して頂ける様に努力している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者の日々の生活において、近隣への外出を頻繁に出掛けている為、自然と馴染みの飲食店や隣人さんがいる。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事には積極的に参加している。運営推進会議を活用して、地域の認知症に対する理解を深めるべく交流に努めている。又、民謡教室や書道教室を地域のボランティアに開いて頂いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議において、地域貢献に向けて話し合っている。地域ネットワーク委員の集いの場をかりて、認知症介護の経験を表現させて頂いた。地域で認知症を抱える高齢者やご家族にむけて、暮らしやすい地域作りを図っていきたいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果を職員に報告し、課題改善に向けて周知徹底を図っている。しかし、前回に指摘を受けた職員のスキルアップに向けての具体策の実現が出来なかった。	○	外部や内部の研修を基本に行っていきたいと考えている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を参考にしている。今現在においては、地域貢献がテーマとしてあり、経験で得た認知症介護を地域に表現して、認知症への理解が深めて頂けるように、努力している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	浪速区の地域施設連絡会や地域を良くしていこうとする様々な有志機関とのネットワーク会に参加して、事業所サービスの向上に努力している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の活用している利用者がいる。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	注意を払い、防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解約事例はない。契約を結ぶ際に、時間をかけて解りやすい説明努力はしている。解らない点があれば、随時お答えしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の議事録をご家族が来訪時に閲覧し、情報公開に努めている。ご家族からの意見、苦情、相談などを気軽に話せるように、日頃からご家族との良好なコミュニケーションを大切にしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、小口預かり金や使用明細書などの報告を行っている。その時に利用者の1ヵ月の様子を時系列に経過報告として、お手紙に記載し送付している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	上記同様。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員全体会議を行っている。その会議は、職員の意見を傾聴する機会として意図的に設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	出来る限り努力しているが、職員不足問題もあり。一時的に十分な体制が整える事が出来ないこともあった。	○	柔軟な対応が出来るように、人材確保に努める。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は開設当初からの勤務者が多く、お互いに馴染みの関係を保っている。職員と利用者の関係が成熟し、あうんの関係で結ばれている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	トピックス的な研修会や勉強会は随時開催や参加している。職員のスキルアップのために計画していた研修会の参加や開催が出来なかった。	○	今の現状における体制で、出来る限りの法人内外研修を図っていきたいと考える。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	浪速区のネットワーク(医療、福祉など)会があり、眼科・歯科・認知症に関する専門知識の情報交換に努めている。そこで得た専門知識を現場で活用し、役立てている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	働きやすい事業所作りに力を入れている。個のプライベートも意識して、出来る限りの希望休を叶えている。又、全体会議を活用し、各職員が提案や意見を出せる雰囲気も大切にしている。必要であれば、個人面談も行っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	働きに似合った給料支給に最善の努力をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	契約前に基本的に本人自身との面談を行っている。しかし、ケースによっては入居に当たっての詳しい説明が出来ない事もあった。その場合は、時間をかけて、暮らしのなかで本人自身と向き合い、傾聴し、その方が求める暮らしを実現できるように努力してきた。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記同様にご家族も面談を行い、時間をかけて、思い悩んでいることや要望を聞きだせるように努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅や医療機関など、その時に必要な支援を見極めるように努めている。時間をかけた面談がそれにあたる。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	納得した上での入居を目指して、短期間の利用(試し入居)もケースによっては行ったことがある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思いや希望を大切にし、訴えや不満等に関しても一緒に考え解決の糸口を考慮している。又、利用者の擬似家族として接し「善悪」を共に判断しながら支援している。介護日誌を詳細に記入する事で、問題意識を持ちながら観察していくよう努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の家族にも、上記の内容を説明し、面会に来られた際には 常に入居されているご家族の状況報告を行っている。又、ご家族の訴えにも耳を傾け介護に対する不安等を話して頂き、共に利用者を支えていく様、支援している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時には、ご家族と利用者との関わり、どの様に接していたのか どの様に介護していたのか、馴れ初め等の情報を聴取し、介護に反映出来るように援助している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族を通じて、馴染みの場所・人を聞きだし、職員で行ける範囲は利用者と共に掛けたりしている。帰宅希望の強い利用者には自宅まで行き、共に過ごす等の支援も行っている。又、ご家族の面会時に知人を同伴し、ホームで過ごして頂く事もある。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々に反りが合わない方に関しては、職員が仲立ちし話題提供を行い、利用者同士が関わりをもてる様に配慮している。又、仲の良い利用者同士に関しては、居室でティータイム等を行いゆったり過ごして頂く事もある。車椅子の方、視力が殆ど見えない方も、皆さんの輪に入れる様座席の位置等も考慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	途中退所された利用者は現在の所居られない為、判断出来ないも 利用者が亡くなられた後も、ご家族と連絡や手紙のやり取りは行ったことがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃から、利用者・ご家族の意向を聞きながら、介護計画を作成したり、看取りについて、今後の方針等を話し合い、職員間でも意志統一出来るように会議等で話し合いを行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、ご家族や本人に生活歴、一日の過ごし方、既往歴、馴染みのある物・人、好物等の情報を聴取している。又、利用者に関わった、介護事業所、主治医からも情報を頂き、ホームでの生活に反映出来るよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	常日頃から、利用者の生活リズムを把握し、いつもと変わった所が少しでもあれば職員間で話し合い、状況に応じては主治医・診療所の看護師に報告するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	前回の介護計画を評価したうえで、半年間のアセスメントを行い、利用者の状態、状況を判断し、個々に応じた介護計画を半年間に1回作成している。要望が伺える利用者には事前に聞きだし介護計画に反映できるよう配慮している。伺えない利用者に関しては、ご家族に聴取している。利用者、ご家族、職員が分かりやすいように介護計画表も見直している		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年に1回は介護計画を作成し、2ヶ月に1度は介護計画に沿った評価を行い、必要に応じてその都度、プランを変更している。ご家族には、常日頃から利用者の状況を報告しプランが変更になった場合は説明するとともにご家族の意見、要望も伺っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個人日誌、全体日誌を詳細に記入し、情報の共有に努めている。些細な変化も見逃さず、生活の状況、状態、受診記録、薬の変更、身体状況等細かく記載する事で、介護方法のあり方を日々考慮している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や特別な外出、外泊支援など利用者やご家族の要望に応じて柔軟に対応している。又、入院等で居室が活用できる場合は、必要に応じて緊急ショートを受け入れも行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月2回の民謡ボランティアや毎週木曜日に書道ボランティアがあり 利用者の楽しみになっている。迷子等必要性に応じて、警察への協力支援は確保しており、消防訓練も年1回は消防機関を通じて行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問歯科、リハビリ等も利用しており、必要性に応じて対応出来ている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて、協働していきたいと考えるが、いまだその様な事例がない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の桧山診療所とも信頼関係が築かれており、急な往診にも迅速に対応して頂ける体制を整えている。又、あいぜん診療所の看護師とも常日頃から、情報提供を行っており、少しでも変化があれば直ぐに診て頂き、助言・指示を頂ける体制になっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医(桧山診療所)が精神内科医な為、認知症に関わる事以外でも、診療をして頂いている。認知的な部分でも変化が見られれば、直ぐに診て頂ける体制は整えている。又、些細な事でも相談し助言や指導を頂いている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同施設内にあいぜん診療所があり、些細な事でも相談し助言・指導を頂いている。又、場合によっては診断して頂いている。かかりつけ医にも直ぐに連絡できる体制は整えており、入居者の状態に応じて往診等して頂いている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	認知症がある為、中々スムーズに入院する事は困難も、かかりつけ医又は、同法人の診療所より入院手続きをとって頂き、ご家族の協力を得て入院する事が出来ている。問題行動等により入院が困難な場合は病院関係者、ご家族と相談した上で退院手続きをとり、ご家族、医療関係者の協力の下、ホームで看るケースもあった。その際は情報を共有し状態変化があれば又入院出来るよう配慮している		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針を作成し、本人の思いを把握した上で、その思いをご家族に伝えている。又、事業所が出来る事、出来ない事(医療行為)をご家族と納得いくまで話し合い、理解を頂いている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	上記同様、看取りの指針を作成し、ご家族の役割、事業所の役割、かかりつけ医の役割等を明確化している。ターミナルケアを実施した事もあり、その時の状況に応じてご家族、かかりつけ医、事業所で今後の対応について話し合いを繰り返し、利用者にとって何がベストなのかを考慮しながら取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在の所、その様な事例は無いも、住み替え等が起こった場合は 十分な対応が出来るように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者ひとり一人の価値観、プライド、プライバシーを尊重し、対応の仕方には注意を払っている。個人情報に関係した書類は書庫に保管している。退職者にも守秘義務の重要性を説明しており、情報が漏れないように注意している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常日頃から、何をしたいのか等の要望を聞き、利用者の思いを引き出すように努めている。又、「はい・いいえ」など、二者選択の幅を広げ利用者に選択して頂ける様に声掛けを行っている。利用者の認知度に応じて長文、短文を使い分け分かり易いように配慮している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のプログラムは持たず、利用者のその日の状態に応じて支援している。大まかな予定(掃除・洗濯・入浴等)はあるものの、利用者にどうするか選択して頂き、状況に応じて臨機応変に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類等、自身で選べる方は職員と共にコーディネートを楽しんでいる。理容については、特養に月1回訪問理容が催されており、利用者が希望されたら申し込みを行っている。外部へ出て美容院に行く方もおられ、ひとり一人に応じて支援している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力を活かしながら、買い物、調理、食事、後片付けを利用者と共にやっている。栄養バランス、盛り付けの工夫、食べたい物を考えながら楽しくおいしい食事になるように心掛けている。職員と談笑しながら後片付けまで楽しんで行える様配慮している。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒、喫煙をされる利用者は現在の所居られないも、行事の際は飲酒を楽しんだりしている。普段から好物を聞いて、おやつで出したり、個人買いして頂いたりしている。飲み物に関しても、コーヒー・紅茶・ジュース等その方の嗜好にあう物を提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定時誘導を心掛け、排泄の失敗を減らすように努めている。個々に応じて、排泄用品を見直しており、現在は日中パッドを使用している方は2名のみ。しかし、利用者の状態(失禁(尿・便)がいつもより多い・体調が優れない等)に応じて排泄用品の使い分けも行っている。又、トイレ、ポータブルトイレも個々に応じて使い分けている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日入浴を心掛けているが、利用者の状態に応じて入浴を中止する事もある。職員は利用者の生活パターンを把握し、要望に合わせた入浴支援に努めている。又、好きな歌をかけたり、一人で入浴を好まれる方は利用者の死角から見守ったり、終始お話ししたりと個々に応じた対応を考慮している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握した上で、臥床を促したり、夜間不眠な場合は起床をずらす、日中の睡眠を重視する等の支援を行っている。又、リビングで過ごす際も明かり(照明)、室温、音等にも配慮し気持ちよく過ごせる様に心掛けている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の特性、今まで培ってきたもの、生活習慣を把握し一人ひとりに応じた援助を行っている。お手伝いを好まれる方には、家事全般の参加を呼びかけ、神仏が好きな方には、個々で地藏参りやお寺参り等を支援している。又、若かりし頃の歌謡曲を掛けカラオケを楽しむ事もある。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談した上で、お金を所持されている方もおられ、自身で電話を掛けたりされている。又、自身でお金を所持されていない方は、職員側でお金を管理し、買い物、外出等でお金が必要な場合は、その都度個人の財布に入れ手渡し、明細を細かく記入している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩は心掛けており、外出希望される時は、出来る限り希望に沿うように支援している。しかしどうしても午前中に外出が無理(職員不足)な場合は、利用者に説明し納得した上で、午後から出掛けられるよう考慮している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	全体行事の際はご家族に参加の声掛けをし、車にて動物園、海浜公園でのバーベキュー、花見等、普段中々行けない所へ出掛け 共に楽しんで頂ける様、又利用者の普段の様子や表情を見て頂ける様に配慮、支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡においては、公衆電話を活用している。又、ご家族から外線があれば、内線を活用し、居室内でゆったりと会話して頂いている。そして、お孫さんにお手紙を入居者と一緒に作成して、文通する事もあった。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	基本のご家族であれば、24時間いつでも、来園して頂いても良い。馴染みの友人などが訪問した場合は、コミュニケーションがうまく運べるように、仲立ちを行うこともある。施設っぽい雰囲気をださないように努力している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。命を脅かすケースであれば、行うこともある。殆どが、物理的な方法。身体に直接的な拘束は一切していない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は基本的には閉めていない。自宅で用心のために鍵をするように施錠を行うこともある。自由を奪う施錠はしていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中においては、出勤者の連携により、所在把握に努めている。夜間においては、頻繁な巡視はしていない。プライバシーを重視している。日々の健康観察から、必要に応じて巡視を強化している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	基本的には日常生活に必要な物品などを過剰な管理をする事は無い。しかし、異食的な問題が著名な場合は、管理のため施錠方法は行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりハットや事故報告書を作成し、又全職員で共感して、事故防止策を講じ、努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故対策マニュアルなどを活用している。殆どの職員が緊急時に必要な対応は行える。しかし、定期的な学ぶ機会を設けていないのが反省点としてある。	○	より速やかな対応が出来るように、緊急時の対応方法を全職員で学んでいきたいと考える。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人で防災訓練を定期的に行っている。その訓練においては、入居者も参加して頂き、より具体的な訓練を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスク管理において、ご家族に確認のもと行っている。拘束ゼロの観点で考察しているので、過剰な抑圧感にならないように努力している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の生活観察から、入居者の細かな変化を逃さないように努力している。協力機関との連携を蜜に行っている。週間的に暮らしに状況を報告している。また定期的な受診もしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を把握するように、全職員が意識して職務につく努力はしており、薬の作用は殆どが頭に入っている。又、全体会議で共有することを図っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然排便を基本的に考えている。運動や水分・食物で工夫を凝らしている。そして必要であれば、主治医へ相談し助言や指示を受けている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床・就寝時に口腔ケア実践をしている。状況によっては、毎食後の口腔ケアも行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	しっかり行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	併設している特養と感染症委員会を開いており、予防対策に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	併設している特養と給食委員会を開いており、事故対策に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	観葉植物などを玄関周りにおいて、努力はしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光できるような設計にはなっている。当園が5Fにあるのだが、5Fと感じないように、テラス周りは木々を植えている。生活観があるような設計にはなっていると思うが、物理的なものより、暮らしの充実から良い雰囲気や空間が作れたらと考える。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間においては、ソファなど設置し、談話スペースを作っている。バルコニーやテラス、談話室などもあり、十分な環境はそろっていると思われる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には備え付けの家具は無い。自宅で使い慣れた家具を活用して頂いている。居室で一人でもゆっくりと過ごせるように、配慮努力している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房の設備は充分に行っている。床暖房もある。生活周りには外気を感じるスペースがあり、換気も意識的に行っている。ので、十分な環境を提供できていると感じている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物も配慮においても、自立した生活が送れるように工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	行えることはすべて行って頂いている。逆にできない事については、限界を作らず、時間をかけて一緒に行い、習慣を奪回できるように日々一緒に戦っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダでは外気浴だけではなく、バーベキューをしたり、家庭菜園をしたり、多くのことを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)